

どんな職業か

マシニングセンター注)・オペレーターの仕事は、マシニングセンターの操作運用であり、図面に基づいた手順・加工方法の決定およびNC(数値制御)プログラムの作成と、実際に機械を操作して品物を加工する仕事に分かれる。

まず、加工する品物に応じて加工プログラムを計算・作成して、NC装置に入力する。工具をセットし、工具の長さや直径などの情報をNC装置に記憶させる。品物を加工テーブルに固定し、加工開始位置を確認し、加工を開始する。途中で細かい確認や調整をしながら作業を進める。品物の取り付けや取り外し、仕上がりの状態や寸法の確認をしながら、連続運転の監視を行う。

加工完了後は、測定機器を操作して形状や加工精度を検査する。また、工具の磨耗の程度や潤滑油量の確認など、機械の保守も行う。

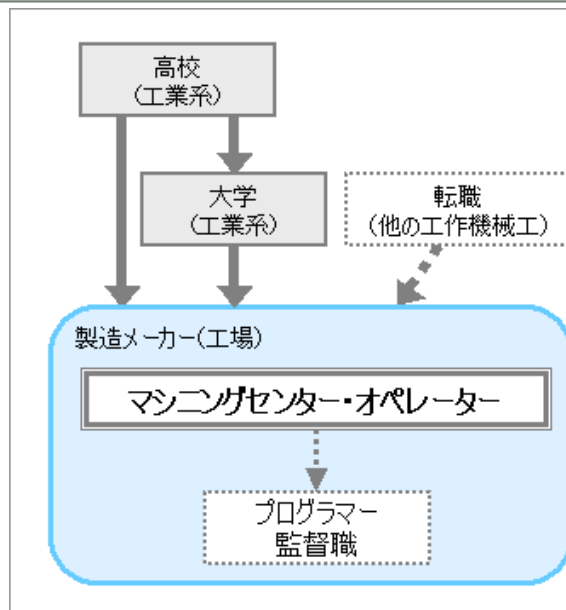
注) マシニングセンターは、素材をセットすると自動的に工具を交換して、複雑な金属の切削加工を連続して行う工作機械である。効率的であるため、現在では工作機械の35%以上をマシニングセンターが占めている。

就くには

入職にあたって特に資格などは必要とされない。入職経路は、この仕事が近年急速に発展したため、従来の手動の工作機械を経験した人が移行する場合と、学卒者が入職後直ちに訓練を受けて就業する場合がある。

入職後は、最初に機械の操作方法を学び、その後、実際にマシニングセンターの仕事を行う中でプログラム作成のための図面の知識、プログラムを効率よく作るための自動プログラミングの知識、切削および工具の知識などを身につける。これらの知識・技能を習得することによりオペレーターからプログラマーへの転向、あるいは監督職への昇進が期待できる。また、特定の分野で優れた技術を持っているれば、独立して自営開業も可能である。

関連する資格として厚生労働省が実施する技能検定の「機械加工技能士(マシニングセンター作業)」の資格があり、取得すると技術の証明として評価される。



労働条件の特徴

全国にはおよそ10万台のマシニングセンターが稼働しており、このため同じぐらいの数のオペレーターがこの仕事に従事しているものと見られる。

ほとんどのオペレーターは製造企業に所属し、工場に勤務している。経験と知識を必要とするため、流動性は高くない。

マシニングセンター・オペレーターは、統計上、フライス盤工に含まれており、賃金や労働時間についてはフライス盤工に準ずると考えられる。マシニングセンターでの作業は自動化され、連続運転が可能であるため機械の監視、保守などの深夜勤務が必要であり、早番・遅番の2交替勤務制となっている場合が多い。

参考情報

関連団体 社団法人 日本工作機械工業会
<http://www.jmtba.or.jp>

関連資格 機械加工技能士